

農林水産の先端技術に触れる

イノベーション推進機構 浪江で体感デー



農業のみらいカフェで意見を交わす参加者

福島イノベーション・コースト構想推進機構は二十日、浪江町の浪島いこいの村なみ

えと道の駅なみえで先端技術がふとしまの農林水産業を憂えるイノベーション体感

デー「いこいの村なみえ」を開いた。

浜通りの農業者や関係機関、農林水産業に興味のある学生を対象に、先端技術や新たな農業の取り組みを知ってもらおうと企画した。

浪島いこいの村なみえでは、浪江町のNPO「法人J」の清水裕吉代表が町内での花井へかき栽培を紹介し、農研機構東北農業研究センター研究員の山下壽直さんはヒートルハワスの様子スマ

ートフォンで確認できる遠隔監視システムを説明した。

「農業のみらいカフェ」も催され、講演者や参加者が浜通りの農業について意見を交わした。福島大共生システム理工学類の岡田幹教授が「フアンリテーター」を勧めた。

道の駅なみえでは、情報通商技術「ICT」を取り入れた農業の事例などを紹介するブースが設けられたほか、スタンプラリーが行われた。

新聞「福島民報」(2021年11月21日号)